9月議会

とばめぐみレポート



寄せられた声を まっすぐ届けました

医療的ケア児にも 通園バスの保障を

医療的ケアが必要な子どもが児童発達支援センターの通園バスを利用できず、家族の送迎に頼る状況があります。市は2022年から、看護師同乗の必要性を認めながらも人材確保などを課題に、通園バスの利用が実現していません。私は、保護者が送迎できるかどうかで療育の機会が左右されないよう、看護師の確保とバスの安全な運行体制を整え、市の責任で通園を保障するよう求めました。

高い保育料 急激な負担増の改善を

さいたま市の認可保育園に通う０～２歳児の保育料は、最高額で政令市20市中７番目、県内３番目の高さです。所得に応じた区分は11段階と政令市でもっとも少なく、区分がひとつ上がるだけで年間13万～16万円も負担が増える場合があります。対象児童の６割以上が月５万5000円以上の区分に集中しています。私は決算審査で、所得区分を細かくして負担の段差をなくすこと、そして段階的に無償にするよう求めました。



中学校まで給食費無償化を 請願採択を主張

私は、中学校まで給食費を無償にするよう求める請願の採択を主張しました。物価高が続くなか、給食費は子育て世帯の重い負担です。国を待たず市独自に実施すべきだと求めました。

しかし、他会派が「国が実施すべき」「市の財政負担が増える」などの理由で反対し、請願は不採択となりました。引き続きあきらめずに求めます。

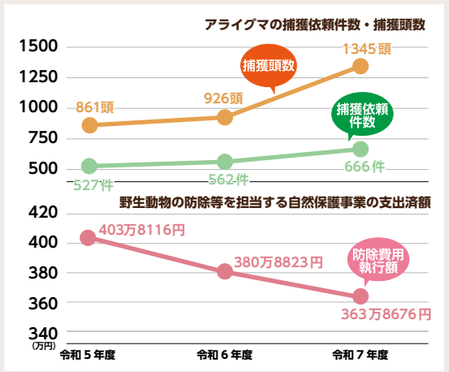
水道料金 減免を必要な人へ

昨年度の水道事業は約35億7000万円の黒字でした。私は決算審査で、県から購入する水の値上げや老朽管の更新費用を、そのまま市民の料金負担に転嫁しないよう要望しました。積立金の活用、国の補助金の確保、一般会計からの支援など、負担をおさえる方策を尽くすべきです。また、低所得世帯などへの料金減免制度の周知を求めました。

アライグマ被害

対策の充実を求める

市内のアライグマ捕獲数は2025年度1345頭で、前年度より約45%増加。見沼区でも111頭から181頭に増えました。一方で市は、相談の目安を「よく見かける」から「棲みついたり、被害がある」へと変更し、範囲をせばめました。被害が出る前の対応こそ必要であるため、私は「予算を増やし、目撃段階からの相談受付と、専門職員の増員、捕獲用具を充実するべき」と求めました。市は「民間事業者や区役所との連携を強め、対応体制を強化する」と答えました。





食肉中央卸売市場・と畜場の移転計画を中止

声も聴かず、説明もなし

さいたま市は昨年11月、食肉中央卸売市場・と畜場の移転計画を中止し、現施設も2028年度をめどに廃止する方針を突然決めました。働く人や事業者、畜産農家への影響を調べず、関係者にも国･県にも事前に相談しない、結論ありきの決定です。

昨年９月議会では「公設で進める方向」「現施設はまだ検討していない」（９月26日）と答弁していたのに、わずか39日後の11月４日には廃止を決定。私は今議会で、いつ、誰が、何を根拠に方針を変えたのか、その経過と判断の根拠を明らかにするよう追及しました。

この施設は、肉の安全を確認する検査や安定供給、公正な価格形成を担い、地域の畜産業と私たちの食卓を支えています。市自身も以前は「重要な施設で、廃止は困難」としていました。建設費の高騰を理由に移転を中止することと、必要な施設そのものをなくすことは別問題です。市は地域の食肉流通機能を維持するとしていますが、廃止方針の撤回には応じていません。私は、廃止方針を白紙に戻し、関係者、国・県との協議をやり直し、存続の道を検討することを求めました。食の安全と働く人の暮らしを守るため、引き続き、廃止撤回を求めます。



市内の牧場を視察

七里の桜 検証も話し合いもないまま伐採予算つく



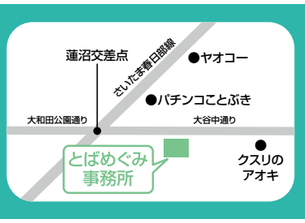
七里駅北口の桜をめぐり、市が依頼した樹木医と「七里の桜を守る会」が依頼した樹木医の調査結果に食い違いがある中で、検証もせず、区画整理組合が「会」との話し合いを拒んでいることも知りながら、市が伐採のための予算をつけました。私は、市の責任で協議の場を設け、第三者による検証をおこなうまで、桜の木を切らないでほしいと求めました。しかし市は、組合が管理する樹木であるとして、協議や検証を約束しませんでした。

地域で親しまれてきた桜は、一度切ってしまえばもとには戻せません。桜を守ってほしいという市民の声にこたえ、保存の可能性を尽くすよう、引き続き市の責任を問います。

日本共産党 さいたま市議会議員

とばめぐみ

お問い合わせ
とばめぐみ事務所見沼区蓮沼471
TEL 048-686-7069



日本共産党さいたま市議会議員団 議会報告　発行：日本共産党さいたま市議会議員団　2026年11月
〒330-0061 さいたま市浦和区常盤6-4-4 さいたま市役所内 TEL 048-829-1811 FAX 048-833-8165
市議団HP

物価高で 厳しいくらしが 浮きぼりに

市民アンケートへのご協力ありがとうございました

今年度、党市議団がとりくんだアンケートにはさまざまなお声が寄せられました。とくに物価高に対する不満や要望が多く、厳しいくらしが浮きぼりになりました。9月30日、2027年度の予算要望 525項目を市長にとどけました。ひとりひとりの声が大切にされる市政の実現に向けて、これからもとりくみます。


525 項目の予算要望書市長に手渡す（9 月 30 日）

アンケートに寄せられた声

物価高で困ってる

- 買い物に行くたびに食料品が値上げで年金生活者には厳しい
- 子どもの保育料が高い
- マイナンバーカードをもっておらず市の物価高対策に申し込みできなかった
- 中学校給食費を無償にしてほしい
- 電気代もガス代も値上がりしている



さいたま市は保育料、中学校給食費、介護保険料などについて、無償化や減免を求めても「国の制度でやるべきこと」というばかり。自治体独自で無償化、減免策に取り組んでいる自治体はたくさんあります。

公共交通充実してほしい

- バスの便が減ってしまって困っている
- 100 円バスがなくなり、240 円になってしまった
- 乗り合いタクシーが満車で乗り切れない



市内の路線バスは 2024 年から 2026 年の３年間で 434 便も減便、廃止。バス運転手の人員確保が課題となっていますが、さいたま市として運転手確保のための補助制度がないのが問題です。

災害対策

- 集中豪雨で下水処理が追いつかず、何日もトイレが使えなかった
- 千葉のような豪雨災害がさいたま市でも起きないか心配
- 学校体育館は避難所でもあるのにエアコンがない



これまでさいたま市は、時間降水量 55.5㎜を目標に、雨水排水対策をすすめてきました。昨今の大雨はこの想定を大きく上回っています。計画降雨量を引き上げ、対策を進めていくことが必要です。

市に求めました

物価高対策

- 物価高対策の施策は、すべての市民に届くかたちで実施すること。
- 0~2 歳児の保育料を無償にすること。
- 中学校の給食費を無償にすること。

公共交通対策

- 高齢者に対する運賃助成制度を創設すること。
- AI デマンド交通を、基幹的な交通を補完するものとして導入を進めること。
- 住民の要求に沿ったバス運行を実現するよう、民間バス会社を支援すること。

災害対策

- 防火貯水槽、消火栓を 100%整備すること。防災予算の増額をはかること。
- 自主防災組織運営補助金の対象品目に「感震ブレーカー」を加えること。
- 分散型避難を想定した対応など、各地の豪雨災害の経験を生かした対策を進めること。

みんなの力で実現！

- 「核兵器のない平和な世界の実現に向けた一層の努力を政府に対して求める意見書」が全会一致で可決
- 市立小学校と特別支援学校小学部の給食費無償化が実現
- 中学生の平和学習派遣事業の継続
- 市立知的障がい特別支援学校設立へ
- ジェンダー主流化推進のための女性職員によるプロジェクトチームが立ち上がる
- 公契約条例制定のための検討がスタート
- 電動ストレッチャーが機動救急隊に導入
- 新見沼有料大橋が無料に（11/28 から）
- 補聴器購入助成制度の創設を市に求める決議があがる

一歩ずつ前へ提案



- 物価高対策はすべての市民を対象にするよう申し入れ（右写真）
- 中学校給食も無償化を
- 県水値上げでも水道料金の値上げするな
- オーガニックビレッジ宣言をうけて具体的な施策をすすめて
- 子どもの権利条例制定のために子どもの声を聴いて

コラム 公共とはなにか



地方自治体における「公共」とはなにか。私たちはその答えを「たとえ儲からなくても住民のためになる事業の実施のために積極的に支出すること」と考えています。そのため、さいたま市政において、「黒字化」や「利益」を主軸とした運営が、医療や福祉、教育といった本来利益を目的としない分野にまで波及していることに強い危機感を覚えます。

さいたま市は「予算が厳しい」として事業を縮小する一方で、毎年の決算では多額の黒字を出しています。しかし行政は単年度会計が原則であり、理想の収支は「プラスマイナスゼロ」であるべきです。多額の黒字とは、裏を返せば「市民から預かった大切な税金を、市民のために使い切らずにあまらせてしまった」ことにほかなりません。税金は、基金にため込むためではなく、市民の命と暮らしを守るためにあります。さいたま市は今、利益至上主義や削減ありきの姿勢から脱却し、税金を住民の福祉の向上のためにしっかり使い切る、という本来の役割に立ち返るべきです。

そもそも さいたま市の「財政はきびしい」の？

2025 年度の財政決算でさいたま市は **69億円の黒字**でした。また基金（貯金にあたる）は **1132億円**あります。**財政的な余裕は十分あります**。さらに**大型公共事業計画の見直しで税金のムダづかいを減らせば**、さまざまな**要求を実現できる財政力**を、さいたま市は持っています。